

大館能代空港と高速道路が直結

日沿道鷹巣大館道路開通式



テープカットで開通を祝う

日本海沿岸東北自動車道鷹巣大館道路(大館能代空港IC、鷹巣IC)の開通式が、3月21日に大館能代空港IC付近で行われ、関係者約230人が参加して開通を祝いました。鷹巣大館道路は、日沿道の一部区間として、平成18年度から大館能代空港ICを起点に大館市の二井田真中ICまでの13・9kmの整備が進められており、このたび開通したのは、このうちの大館能代空港ICから鷹巣ICまでの1・7km。これにより東北自動車道から大館能代空港に直結し、県北部の高規格幹線道路網の一翼を担うことが期待されます。

この日の会場となった大館能代空港ICには、国や県、北秋田市、大館市、能代市の観光パネル展示ブースや企業紹介ブースが設けられたほか、高速道路を自由に歩くことができるフリーウォークが行われました。開通式の開会に先立ち、鷹巣中学校と鷹巣南中学校の生徒による、ブラスバンド演奏、鷹巣南小学校の児童による上舟木駒踊り、合川太鼓保存会による合川太鼓を披露したほか、開

通を祝いバター餅まきが行われ、多くの来場者を迎え入れました。また、会場内ではきりたんぼ鍋や比内地鶏鉄板焼き、鮎の塩焼き、甘酒などが振る舞われ、来場者は地元の郷土料理を堪能しました。



早期全線開通を目指す 石井国土交通大臣

式典で石井啓一国土交通大臣は「空港と高速道路が直結することで、広域周遊観光の拡大や産業活性化を力強く後押しするものと期待をしています。早期全線開通を目指し事業を推進していく」などと述べ、佐竹敬久秋田県知事は「延伸は、企業の立地環境が向上し、産業集積や雇用の拡大、物流の効率化などに大きく寄与するもの。今後も道路整備を加速させていく」などと述べました。つづいて、鷹巣小学校5年の津谷和奏さん、庄司昊平さん、中川心結さん、鈴木海斗さんの4人がメッセージを発表しました。

地域の機運高め 全線開通へ津谷市長

最後に、津谷市長が「高速道路は、ネットワークとしてつながってこそ本来の効果を発揮する。地域の機運をより一層高め、全線開通に向けた取り組みを進めていく」などと、開通を喜ぶとともに全線開通に向けて決意を述べました。このあと、国や県、近隣市町村の首長や関係者などによるテープカットとくす玉開披を行い、開通を祝いました。

北秋田市
地域おこし
協力隊

きたあきたの 魅力発掘

vol.1



米倉信人 隊員

「移住・定住支援って？」

昨年5月に地域おこし協力隊に着任し、2年目の活動に入りました。この4月からは移住・定住支援室も設置され、北秋田市の移住・定住への取り組みも加速しています。今回は、市の移住・定住に関する取り組みを簡単に紹介したいと思います。

①北秋田市へ移住したいとか移住することを決めた人たちの相談に対応しています。移住する前に北秋田市がどんな所で、



▲都内でのイベントの様子

どんな仕事があるか、住宅はあるのか、どんな支援が受けられるのかなど相談内容は様々です。②北秋田市が実施している移住体験の企画や体験希望者との日程調整、現地の案内などもしています。また、移住定住ネットワークセンターが阿仁合に完成し、体験希望者の受入体制も強化されました。

③主に東京で行われる移住イベントで市のPRや移住相談を受け付けています。業務はこのほかにもあります。以上が柱となっている取り組みです。

現在の北秋田市への移住者の大半がUターンで帰ってくる人達です。しかし、移住希望者登録をしません。身近な人がUターンしたいとか会社採用されて来る方がおりましたら、移住定住支援室(☎62・6606)に連絡を頂ければと思います。

境 コラム 第14回

北秋田の自然を楽しみ 生物多様性について考えよう!

少し肌寒かった4月も終わり、動植物でにぎわう季節となりました。市でも森吉山をはじめ、様々な場所がたくさん生き物を見ることが出来ます。この豊かな生物たちも守るべき大切な環境のひとつです。

毎年5月22日を「国際生物多様性の日」として国連で定めています。また、2011年から2020年までの10年間を「国連生物多様性の10年」と定め、国際社会のあらゆる組織が連携して生物多様性の問題に取り組むこととされています。

一人一人が生物多様性との関わりを日常の暮らしの中で捉え、実感し、身近なところから行動することが、生物多様性保全の第一歩であるとした、生物多様性を守るための5つのアクションを紹介いたします。①地元でとれたものを食べ、旬のものを味わう。②自然の中へ出かけ、動物園・植物園などを訪ね、自然や生物に触れる。③自然の素晴らしさや季節の移ろいを感じ

「ビックアップ」 生物多様性とは?

地球上には、ヒトを含め、パンダや小麦、バクテリアなど様々な生物がいます。そして、生物は他の生物と直接・間接的につながり合っています。この生物のつながりがこそが生物多様性です。

私たちが食べている食料も、医療を支える医薬品の成分も、すべて生物多様性の恩恵ですが、生物多様性は人類のためだけにあるわけではなく、私たちも地球という大きな環境の一部ということ忘れず、生物の豊かな個性とつながりを守っていきましょう。

